



5月8日に滋賀県大津にて、散歩中の園児が巻き込まれ死亡及び大怪我をするなどの痛ましい事故がありました。

散歩は乳幼児期、心身の成長に欠かせません。

あおぞら水元保育園では、近隣にあります15か所位の公園に、年間を通して殆ど毎日遊びに行っていますが、今回の事故の重さを改めて考えて、散歩途中の道路での安全な過ごし方を、場所別に様々な角度から見直しをして、公園までのルートも明確にしています。

ご家庭でもお子さんを危険から守れる様、大人が見本となり安全教育にご協力をお願いいたします。



☆クラス紹介（やま組）☆

【やってみたいという気持ちを大切に、丁寧に関わる】

歩く・走る・跳ぶなどの基本的な運動機能や指先の機能が発達し、身体を思うように動かせる事に喜びを感じられるようになります。それに伴い、戸外で走ったり、食事・衣類の着脱等、身の回りの事を自分でしようとする気持ちも増してきます。

食事では、味覚の発達に伴い苦手な食材が出てきますが、食べようとした気持ちや食べられた事を喜び合い、次の一口へと繋げていけるよう配慮しています。

また、自我が芽生え「もっと」「自分で」と、強く自己主張しますが、それは思っている事を上手に伝えられなかったり、やろうとしても出来ない事に苛立ってしまう為です。その際は、思いを受け止め、励まし、出来た時には喜びます。

模倣が上手になる事や物事の共通性に気付き始め、簡単な「見立て遊び」や「ごっこ遊び」が出来るようになり、友達との関わりにおいても保育者が仲立ちし、代弁を行い、個々の遊びから少しずつ友達同士で遊べるようにしています。

2歳児は繰り返しや積み重ねが大切な時期なので、様々な体験・経験を通し、豊かな心が育めるような保育を目指しています。



★保健室より

6月は、歯と口の健康習慣の月です。

子どもの歯は大人に比べて虫歯になりやすく、健康な歯で過ごす為には、子どもの頃からの歯の健康が大切で、顎や脳の発達にも影響します。

口の中の細菌が定着するのは2~3歳位で、虫歯菌に感染すると、虫歯になりやすい口腔環境になります。自分できれいに磨くことができない乳幼児は、保護者の方の仕上げ磨きが大切です。



<虫歯・歯周病から守る為には>

- ★大人が口をつけた物を与えない。★子供専用の食具を使う。
 - ★甘い物をダラダラ与えない。★よく噛んで食べる習慣をつける。
 - ★毎日汚れを落とす。★かかりつけ医を持ち、定期的に受診をする。
- 乳歯の虫歯は永久歯や歯並びに影響する為、早期治療が大切となります。

<食中毒>

気温が高くなる初夏~初秋にかけては食中毒菌が増えるのに適した気温であり、食品の不衛生な取り扱い等の条件が重なることで発生しやすくなると考えられます。食品を菌に触れさせないよう、手や調理器具はしっかり洗いましょう。温度管理に気をつけ、食品は早めに食べましよう。十分に加熱し殺菌しましよう。

食中毒予防の基本は、手洗いです。手洗いの習慣を身につけましよう

★給食室より

【食べ物の働きを知ろう】

食べ物は体の中での働きの違いから「赤・黄・緑」の3つのグループに分けることが出来ます。健康な身体を作るためには、3つのグループの食べ物をバランスよく食べることが大切です。

赤：血や肉、骨、歯など、体を作るもとになる「たんぱく質」や「カルシウム」が含まれています。

例》鶏肉・豚肉・牛肉・卵・魚・貝・肉や魚の加工品（ウインナーやハムなど）・大豆製品（納豆・豆腐など）・海藻類（わかめ・こんぶなど）・乳製品（牛乳・ヨーグルト・チーズなど）

黄：体の熱や力のもとになる「炭水化物」や「脂質」がふくまれています。

例》穀類（ごはん・パン・麺類・パスタ類・芋類・シリアル・おもちなど）・油・バター・マヨネーズ・砂糖

緑：体の調子を整え、病気を防ぐ「ビタミン」がふくまれています。

例》野菜全般（にんじん・大根・キャベツ・レタス・トマトなど）・果物全般（みかん・苺・ぶどうなど）・きのこ類（しいたけ・しめじ・えのき茸など）

この3つのグループを少し意識するだけで、バランスの良い食事をとることにつながるので、ご家庭でも参考にしてみてください。

